

ルコトニ同意スルコトニ決定セリ

依テ貴官ハ右ノ趣大使ニ報告セラルルト同時ニ警務部長ヲ
通シテ關東局側ニ通告セラレ尙此ノ際關係領事ノ至當ナル
要望ニ關シ重ネテ先方ノ注意ヲ喚起セラルルト共ニ法權撤
廢ノ際現地現状ノ儘滿洲國ニ移讓スヘキ原則確立ノ爲ニモ
此ノ際出來得ル限り附屬地外ノ警察配置ヲ密ニシ置クノ要

アル所以ヲ力説セラレ此ノ上トモ關東局側トノ聯絡協調ニ
付善處セラレ度ク又關係領事ヘモ篤ト本件ノ經緯ヲ通達セ
ラレ大局上萬遺漏ナキヲ期セラレンコトヲ望ム
右命ニ依リ回答ス

谷參事官トモ協議済

2 满州国における邦人への課税問題

716 昭和10年2月7日 在(滿州国谷大使館參事官より)
重光外務次官宛

居住營業の自由、課税および産業法規の邦人への

適用等に関する日滿間暫定協定案の作成について

公機密第一九五號

(接受日不明)

昭和十年二月七日

在 滿

大使館參事官 谷 正之

外務次官 重光 義殿

居住營業の自由、課税及産業法規ノ邦人適用等

ニ關スル日滿間暫定協定締結方ノ件

本件暫定協定締結ノ必要ナルコトニ付テハ客年七月二十八

日附大臣宛往信機密第一三三〇號、同年九月五日附往信機

密第一五五二號等屢次申進ニ依リ御承知ノ通リナル處其ノ

後滿洲國ノ事態ハ邦人ノ内地進出激増、稅制整理ノ進捗、

產業關係ノ複雜化等ニ依リ此上現在ノ如キ曖昧ナル條約關係ヲ其ノ儘トスルコトハ我カ對滿經濟的發展上ハ勿論日滿

間融洽提携上ニ於テモ甚々面白カラサル影響ヲ及ホス虞ア
ルノ實情ニアルニ鑑ミ此際治外法權撤廢ノ第一着歩トシテ
現狀ニ則スル暫行的措置ヲ講スル必要ヲ認メ在滿領事ノ意
見ヲモ參酌シタル上今般當方差當リノ試案別紙ノ通り作成
シタルニ付右御参考迄ニ送付ス
尙本件ニ付テハ前記試案ノ骨子ニ依リ當地日本側各機關ト
モ内協議ヲ遂ケ現地案ヲ得タル上ハ改メテ請訓致度意嚮ナ
ルニ付本省ニ於テモ豫メ御研究置相煩度シ

(別 紙)

日本國及滿洲國間暫定協定案(昭和一〇、一一、六)

日本國及滿洲國ハ兩國間ニ通商航海ニ關スル條約ノ締結セ
ラルルニ至ル迄ノ暫行的措置トシテ左記各條ヲ協議決定セ
リ

第一條

兩締約國ハ大正四年日支間ニ締結セラレタル南滿洲及東部
内蒙古ニ關スル條約第二條及第三條ノ規定ヲ滿洲國ノ全領
域ニ適用スヘキコトヲ約

註 (一)興安省ニ於ケル商租權ニ付テハ必要ニ應シ制限ヲ

加へ得ルコトトシタリ(議定書第一條參照)

註 (二)商租權享有等ニ關スル手續法ハ之ヲ日本國民ニ適用スルコトトシタリ(議定書第一條參照)

第二條 用スルコトトシタリ(議定書第一條參照)

(甲 案)

日本國國民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ本協定及同附屬書ノ定ムル條件ニ依リ同國ノ法規ニ從ヒ其ノ國稅及地方稅ノ課徵ニ服スヘシ

日本國國民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ本協定ノ定ムル所ニ從ヒ同國ノ產業ニ關スル法規ノ適用ヲ受クヘシ

滿洲國政府ハ南滿洲鐵道附屬地内ニ於ケル滿洲國人ニ對シ前二項ニ定ムル法規ヲ適用シ得ルモノトス

註 (一)日本人居留民團其ノ他ノ公共團体ニ對シテハ滿洲國政府ヨリ年々一定ノ金額ヲ交附セシムルコトトシタリ(議定書第二條ノ一参照)

註 (二)產業ニ關スル法規ノ意義ヲ明瞭ナラシムル爲補足的規定ヲ設ケタリ(議定書第二條ノ二参照)

註 (三)滿洲國政府ノ滿鐵附屬地内ニ於ケル滿洲國人ニ對スル本條ニ定ムル法規適用上ノ實際的措置(徵稅、

強制徵收其ノ他兩法規適用ニ關スル行政行爲及罰則ノ適用等)ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルコトトシタリ(議定書第二條ノ三参照)

註 四滿鐵附屬地内ニ於ケル滿鐵ニ對スル課稅ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルコトトシタリ(議定書第二條ノ四参照)

(乙 案)

日本國國民ハ南滿洲鐵道附屬地ヲ除ク滿洲國ノ領域内ニ於テ本協定及同附屬書ニ定ムル條件ニ依リ同國ノ法規ニ從ヒ其ノ國稅及地方稅ノ課徵ニ服スヘシ

日本國國民ハ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル滿洲國ノ領域内ニ於テ本協定ノ定ムル所ニ從ヒ同國ノ產業ニ關スル法規ノ適用ヲ受クヘシ

註 (一)(甲)案註(一)及(二)ト同様

註 (二)滿鐵附屬地内ニ於テハ附屬地外ニ於ケル本條ノ實施ト併行シテ大体次ノ如キ措置ヲ講シ以テ成ル可

ク附屬地内外ノ權衡ヲ保タシムルト共ニ一般的治外法權撤廢ノ礎地ヲ築クコトトシタリ

(1)課稅權ニ付テハ(1)關東局所管ノ特別會計制度ヲ

廢止シテ之ヲ内地一般會計ニ編入セシムルト共ニ關東局ヲシテ附屬地内ニ於テ酒、煙草等ノ消費稅ヨリ初メテ漸次附屬地外課稅ニ順應スル課稅ノ賦課徵收ヲ爲サシムルカ(2)關東局二代フルニ滿鐵ヲシテ右課稅ノ賦課徵收ヲ爲サシムルカ何レカノ措置ヲ執ルコト

(2)產業ニ關スル法規ニ關シテモ附屬地内ニ於テ附屬地外ニ於ケル日本國民ニ適用セラル滿洲國法規ト同様又ハ類似ノモノヲ制定實施スルカ或ハ行政警察法規ノ運用等ニ依リ事實上右法規ノ適用ト同様ノ結果ヲ齎ス様措置スルコト

以上(1)及(2)中何レノ措置ヲ執ル場合ニモ本件條約實施ニ關聯シ閣議ニ於テ其ノ方針ヲ決定シ置ク等適當ノ措置ヲ講シ置ク要アルヘシ

第三條

日本國國民カ第一條ニ定ムル產業ニ關スル法規ニ付体刑ニ該當スル違反行為ヲ爲シタルトキハ滿洲國當該官憲ハ最寄リノ日本國領事官ニ之ヲ申出ヘク右申出アリタルトキハ日本國領事官ハ滿洲國ノ當該法規ニ依リ之ヲ審理判決シ且右判決ヲ執行スヘシ右ノ場合罰金及沒收品ハ滿洲國ノ國庫ニ歸屬ス

日本國國民カ第一條ニ定ムル產業ニ關スル法規ニ付体刑ニ該當スル違反行為ヲ爲シタルトキハ滿洲國當該官憲ハ最寄リノ日本國領事官ニ之ヲ申出ヘク右申出アリタルトキハ日本國領事官ハ滿洲國ノ當該法規ニ依リ之ヲ審理判決シ且右判決ヲ執行スヘシ

日本國國民ニ於テ第二條ニ定ムル租稅ヲ納付セサルタメ之強制徵收ヲ必要トスルニ至リタルトキハ滿洲國當該官憲ハ日本國領事官ニ之ヲ申出ヘク右申出アリタルトキハ日本國領事官ハ當該官憲ニ代リテ滿洲國當該法規ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ

滿洲國政府ハ前條ニ定ムル法規ヲ日本國國民ニ適用セントスル場合ニハ豫メ之ヲ日本國政府ニ通告シ其ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ法規ヲ變更セントスル場合ニモ又同様ノ手續ヲ經ル

中ニ体刑ヲ定メサル様指導スルモノトス

第五條

天居留民会請願について
(4月15日接受)

本協定ハ調印ノ日ノ後一月目ヨリ效力ヲ發生シ且將來兩締結國間ニ本協定ニ代ルヘキ條約ノ締結實施セラルニ至ル迄其ノ效力ヲ有ス

第六條

特命全權大使 南 次郎〔印〕
外務大臣 廣田 弘毅殿
滿洲國ノ邦人課稅問題ニ關スル件

本件ニ關シ在奉天居留民會ヨリ別紙寫ノ通り請願アリタルニ付御參考迄ニ右送付ス

本信送付先 外務大臣

關東軍參謀長、長岡關東局總長
外務大臣 廣田 弘毅殿
滿洲國ノ邦人課稅問題ニ關スル件

(別紙)

奉民第二七七三號

昭和十年四月一日

奉天居留民會長 野口 多內
駐滿全權大使 南 次郎殿

滿洲國課稅問題ニ關シ請願ノ件

717 昭和10年4月9日 在滿州國南大使より
廣田外務大臣宛

昭和

康德

年

月

日

即チ

姓 名
姓 名

編注 本協定付屬議定書案は省略。

首題ノ件ニ關シ本日本民會第一六四次評議員會ノ全會一致ヲ以テ別紙ノ通り議決致候條右御採納相成度此段奉願候也
奉天居留民會ハ治外法權問題ヲ含ム課稅問題ニ付滿鐵附屬地内ト差別待遇ヲ受クル事ニ反対ス

決議

斯ニ於テハ民會ニ於テモ別個ニ之ヲ考量スル用意ハ有ルモ唯々漫然無條件ニ附屬地ノ内外ヲ差別スルカ如キコトアラハ奉天居留民會ハ到底默視スル事能ハサルモノニシテ今其ノ反對理由ヲ細別シテ條列スル事左ノ如シ

一、奉天ハ日露戰爭中ニ開放セラレタル條約上ノ通商地ニシテ邦人ハ戰後卒先此地ニ殺到シテ通商貿易ニ從事シ深ク其ノ根底ヲ築キ上ケ沿革シテ今日ニ至レルモノニシテ其ノ後奉天ニ於テハ滿鐵附屬地ニ隣接シテ各國共同ノ商埠地等モ設定セラレ我カ國ハ勿論各國トノ利害關係モ亦タ甚々緊密ナルモノアリ斯ル條約上ノ特權區域ニ對シテハ徒ニ滿洲國行政權ノ及フ範圍外ナリト言フカ如キ單絕ナル理由ノ下ニ滿鐵附屬地ト差別待遇ヲナサントスルカ如キハ情理ニ適ハサル事柄ナリトス

二、附屬地外居住邦商ノ主ナルモノハ滿洲國人ヲ顧客トシ直接國際貸借ニ貢獻スル所ノ所謂貿易商ニシテ既ニ多クノ年所ヲ經隨ツテ是等邦人ハ時トシテ帝國外交ノ犠牲トナリテ日支衝突ノ難局ニ遭遇シ幾度カ生死ノ巷ニ彷徨シタ歴史的事實ヲ體驗セルニ反シ滿鐵附屬地ハ日露戰役後十數年、即チ彼ノ歐州大戰ニ依ル戰時經濟ニ伴フ好況時テ奉天居留民會ノ納得スル何等カノ必要條件ノ取極メヲナ

代ノ影響ヲ受ケテ急激ニ發展セル地域ナルカ故ニ隨ツテ此地域ニ於ケル在住邦人ハ只管安逸ニ經過シ附屬地外在住邦人ノ如キ生命ノ危險ナヲ體驗セルコト無キモノ多シ、今若シ法權問題並ニ課稅問題等ニ付附屬地ノ内外ニ差別的取扱ヲナサンカ乃チ一日ノ偷安ヲ希望スルハ人情ノ常ナレハ折角附屬地外發展ノ邦人ハ又タ復タ附屬地内ニ遁入シテ錙銖ノ利ヲ争ヒ晝策到ラサルナク再ヒ張學良時代ヲ現出スルノ奇觀ヲ呈スルニ至ルコトナキヲ保セス、斯ノ如クニシテ弊端百出スルコト蓋シ設想二餘リアリ、外先住邦人ノミ恵マレサルノ不公平ヲ見ルニ至リ人情亦タ忍フ能ハサルモノアリ

一、南滿沿線地方ニアリテハ大部分ノ在留邦人カソノ居住地ヲ附屬地ニ有スルニ拘ラス奉天ハ現ニ附屬地外ニ三萬有餘ノ邦人ヲ包擁シ附屬地人口ノ半數以上ヲ占メ諸般ノ行政機構モ亦タ滿鐵ト對立シテ嚴存セルハ以上ノ歴史的事實ニ淵源スルモノニシテ而カモ行政管區ノ異同ニ拘ラス克ク附屬地側ト一致協力シ全奉天ノ在住邦人ハ一市民ノ形態ノ下ニ社會的並ニ軍國的奉仕ニ就テハ其貢獻スル所

以上理由ニ依リ帝國政府並ニ滿洲國政府共ニ奉天市域ニ關スル限り治外法權ヲ含ム課稅問題ニ付滿鐵附屬地ノ内外ニ差別的取扱ヲ爲ササル様善處セラレンコトヲ要望ス

ニ等異ル所ナシ、然ルニ僅カニ紙一枚ヲ隔テテ境界ヲ異ニスルノ故ヲ以テ附屬地ト差別的取扱ヲナサンツルハ實際ニ即セサルモノナリ

一、大正四年日支間ニ締結サレタル南滿洲及東部内蒙古ニ關スル條約ノ精神ハ言フ迄モナク農業經營ノ目的ヲ以テ土地商租ノ行ハルル内地地方ニ於テノミ邦人力滿洲國ノ警察權乃至課稅權ニ服セントスルモノニシテ條約ニ依リテ開放サレタル通商口岸ノ特權地域ニ迄及ホサルヘキモノニ非サルモ滿洲國力商租地域ヲ南滿洲ノ制限ヨリ全滿ニ擴大セル代償トシテ警察權、課稅權ノ行使區域ヲ條約上開放サレタル通商口岸ノ特權區域ニ迄擴大セントスル主義ニ對シテハ今日ノ場合格別反對スル程ノコトナキモ唯タ當奉天ノ如キ特種ノ狀態ヲ形成スル地方ニ於テ前述ノ通り纔ニ紙一枚ヲ隔テテ滿鐵附屬地ト附屬地外トヲ差別的ニ取扱ハントスルハ極メテ不合理ナリト強調スル次第ナリ

右決議ス

附帶決議

一、課稅率ハ急激ノ增加ヲ避クルコト

理由

滿洲國課稅問題ニ付動モスレハ帝國內地ノ稅率ヲ以テ滿洲ノ現狀ニ比周スルモノアルモ内地ノ稅率ハ一朝ニシテ今日ノ如キ高率ノ程度ニ躍進セルモノニ非ス少クトモ數十年ノ習性ト漸遞加重ノ階段ヲ經タルハ勿論我カ居留民會課金ノ如キモ時勢ノ變化ニ伴ヒ已ニ事變前ニ比シニ倍乃至三倍ノ負擔ヲ增加シ居ルコトナレハ近キ將來ニ於テ課稅權ヲ滿洲國ニ移讓スル場合アリト假定スルモ努メテ急激ノ增加ヲ避ケ以テ人心ノ動搖ヲ防キ政道ノ運行ヲ圓滑ニスルヲ至要トス

一、滿洲國ノ課稅權ヲ認ムル場合ハ同時ニ在住帝國臣民ニ對シ滿洲國ノ國政又ハ市政等ニ參與スルノ權能ヲ附

與スルコトトスヘシ右ハ極メテ順當ノ理由ニシテ其レカ爲メ兩國臣民ノ感情ヲ融和シ親善ヲ增進スルノ基本トナリ政道ノ暢達ニ裨益スル所蓋シ大ナルモノアリト思考スルニ付

已ニ或ル地方ニハ先例モアルコトナレハ速ニ適當ノ方法ヲ

道ノ暢達ニ裨益スル所蓋シ大ナルモノアリト思考スルニ付按出スルヲ至要トス

右附帶事項トシテ決議ス

718 昭和10年6月26日 在滿州國南大使より
廣田外務大臣宛(電報)

我が國による治外法權の將來的撤廢を見据え

た滿州国の營業稅法改正について

「在滿本邦人ニ對スル滿洲國ノ營業稅賦課默認二關スル件」

付記 通商局第一課作成、作成日不明

滿洲國ニ於テ稅制整備ニ力ヲ盡シツツアルコトハ屢次ノ報告ニ依リ御承知ノ通ナル處最近治外法權ノ調整ニ關聯シ外國人課稅權ノ解決ニ資スル必要アリタルト一方康德二年度豫算編成上ノ關係モアリシ爲先ツ營業稅法ヲ改正實施スルコトトナリ今般財政部當局ヨリ當館係官ニ對シ同法案ノ内示アリタルカ右ハ全國的ニ不統一ニシテ複雜不備ヲ極メ且著シク負擔ノ權衡ヲ失スル現行營業稅法ヲ改正シテ國民經濟實情ニ適應セシムルコトヲ主眼トシ同時ニ歲入ニモ著シキ増減無カラシムルコトヲ期シタルモノニシテ其ノ內容中(一)法人ト個人ニ對スル二箇ノ稅法ヲ設ケタルコト(二)個人製造業ニ對シ一定期間ノ課稅免除ヲ認メ且個人營業ニ對スル免稅點制度ヲ設ケタルコト(三)課稅標準ハ法人ノ純益制、個人ハ概計標準制トセルコト(四)課稅標準ノ決定ニ對シ上級官廳ニ對スル審查請求ヲ認メ且個人ノ分ニ付テハ減損肯定及付意見ヲ諮詢シ得ル制度ヲ設ケタルコト等ノ點ハ外國人課稅問題ニ關聯シ當方豫テノ意見ヲ相當斟酌考量シ居ルモノト認メラルルモ其ノ稅率ハ一般的ニ相當高率ナリ

右ニ關シ財政部當局ハ從來著シク高率ナリシ吉、黑兩省地

⁽²⁾ 右ニ關シ財政部當局ハ從來著シク高率ナリシ吉、黑兩省地
右ノ稅率ヲ引下ケ且一般貨物稅ノ全廢ヲ爲シ而モ全体ノ稅收ニハ餘り影響ヲ及ホササル様措置シタル爲已ムヲ得サルノ注意ヲ促シタル處先方ハ本件營業稅ハ差當リ滿人ニ對シテノミ課稅スル事ヲ目標トシタルモノニ係リ(イ)外國人ニ對シテハ本稅法ヲ基準トシ其ノ要求ヲ加味シテ過當ノモノニ非支無キ事ハ本稅法ニ定ムル稅率中不適當ノモノハ他日相當引下ヲ斷行シ差支無キ旨ヲ言明シ要スルニ本件營業稅法ハ用意アル事(ロ)外國人課稅ニ關シテハ漸進課稅主義ヲ認メ差支無キ事ハ本稅法ニ定ムル稅率中不適當ノモノハ他日相當引下ヲ斷行シ差支無キ旨ヲ言明シ要スルニ本件營業稅法ハ對外的ニハ將來外國人課稅問題解決ノ爲具体的ニ資料ヲ提供セルモノニシテ右ニ對スル日本側ノ要求ニ對シテハ充分好意的考量ヲ加フル用意アル旨ヲ述ヘタル趣ナリ尙右營業稅法改正ハ來ル七月一日ヨリ實施スル豫定ナルカ同時ニ全滿各地ニ於ケル現行貨物稅法ハ之ヲ廢止スル事トナリ居ル趣ナリ委細郵報ス

全滿各館へ轉電セリ

(付記)

在滿本邦人ニ對スル滿洲國ノ營業稅賦課默認

二關スル件

一、在滿本邦人(法人ヲ含ム以下同シ)ハ條約上滿洲國ノ課稅二服スル義務ナキハ固ヨリナルモ最近ハ日滿間ノ新關係ニ鑑ミ滿洲國稅收確保ニ協力ノ趣旨ヨリ滿洲國課稅中或種ノモノ(例統稅、商租地ニ對スル田賦、契稅、其他出產稅及消費稅一部等)ニ付キテハ滿洲國力之ヲ本邦人ニ賦課スルヲ默認スルノ方針ヲ採り來レリ然ルニ營業稅二關シテハ右カ未タ充分ノ整理ヲ見サルノ現狀ニ在ルコト及他ノ單ナル對物課稅等ト異リ申告ノ義務、帳簿、營業所ノ檢查事項ヲ包含シ從ツテ邦人ノ有ユル治外法權ト關聯シ困難ナル問題發生ノ惧アリタル等ノ理由ニ依リ滿洲國側ガ之ヲ邦人ニ課スルコトハ我方ニ於テ未タ默認スルニ至ラス

三、然ルニ本邦人ノ營業稅ヲ負擔セサルコトニ基ク日滿兩國商間ノ負擔不均衡ハ次第ニ表面化シ來リ爲ニ滿洲國政府ニ於テモ滿人ヨリ正規ノ率ニヨル徵稅ヲ手加減セサルヲ得サル等ノ機微ナル問題ヲ生スルニ至リ其結果滿洲國

方ノ稅率ヲ引下ケ且一般貨物稅ノ全廢ヲ爲シ而モ全体ノ稅收ニハ餘り影響ヲ及ホササル様措置シタル爲已ムヲ得サル結果ニシテ國民負擔ノ點ヨリ觀レハ決シテ過當ノモノニ非サル事ヲ説明シ居リタル趣ナリ

右營業稅ハ他日之ヲ外國人ニ其ノ儘適用スル事トセハ不適當ノモノト認メラルヲ以テ係官ヨリ此ノ點ヲ指摘シテ先方ノ注意ヲ促シタル處先方ハ本件營業稅ハ差當リ滿人ニ對シテノミ課稅スル事ヲ目標トシタルモノニ係リ(イ)外國人ニ對シテハ本稅法ヲ基準トシ其ノ要求ヲ加味シテ過當ノモノニ非支無キ事ハ本稅法ニ定ムル稅率中不適當ノモノハ他日相當引下ヲ斷行シ差支無キ旨ヲ言明シ要スルニ本件營業稅法ハ對外的ニハ將來外國人課稅問題解決ノ爲具体的ニ資料ヲ提供セルモノニシテ右ニ對スル日本側ノ要求ニ對シテハ充分好意的考量ヲ加フル用意アル旨ヲ述ヘタル趣ナリ尙右營業稅法改正ハ來ル七月一日ヨリ實施スル豫定ナルカ同時ニ全滿各地ニ於ケル現行貨物稅法ハ之ヲ廢止スル事トナリ居ル趣ナリ委細郵報ス

全滿各館へ轉電セリ

五、尙本件ニ關聯シ最モ考慮ヲ要スルハ(イ)滿洲國ノ營業稅默認ニ依リ邦商カ從來ヨリ納付シ居リタル民會費トノ關係ニ於テ二重ノ負擔ヲ受クルコト、ナル惧アルコト及(ロ)右ニ關聯シ附屬地内外ノ邦商ノ負擔均衡ノ問題ナル處(イ)ニ關シテハ各民會ニ於テ滿洲國營業稅默認後ニ於テハ右ヲ支拂フ邦商ニ對スル民會費ヲ可及的減額ノ措置ヲ講セシムルコト、シ右ニ基ク減收ハ別記滿洲國ヨリノ寄附ヲ以テ補ハシムルコト、セハ可ナルヘク又(ロ)ニ關シテハ附屬地内外ノ商民ノ負擔ニ甚タシキ不均衡認メラル、際ハ附屬地内ニ於ケル滿鐵ノ公費中營業主ニ賦課スル部分ヲ多少引上ケ以テ附屬地内外ノ負擔均衡ヲ計ルコト、シ右ニ基ク滿鐵ノ增收ハ之ヲ教育費補助等ノ名目ニテ附屬地隣接ノ民會ニ寄附セシムルコト、セハ可ナルヘシト思考ス

(別紙)
在滿本邦人ニ對スル滿洲國營業稅賦課默認ニ
關スル方針案

左記ニ依リ帝國政府ハ滿洲國政府カ在滿本邦人(法人ヲ含ム)ニ國稅タル營業稅ヲ賦課スルコトヲ默認スルコト

一、默認ノ範圍	課稅ノ範圍ハ國稅タル營業稅(質商、煙草商、酒商等ニ對スル特殊營業稅ヲ含ム)ニ
四、代償	本年七月頃
三、時期	本年七月頃
五、條件	默認
	舊熱河省ニ相當スル地域内ニ於テ日本人ニ 商租權ヲ許與スルコト
	(イ)現行營業稅率ノ引下ケ(又ハ邦人ニ對シ テノミ低稅率ニ依ル課稅)
	(ロ)絶體ニ強制力ヲ伴ハシメサルコト從ツテ 罰則等ノ適用ナキハ勿論帳簿營業所等檢 査ノ必要アルトキ乃至邦人稅金不納ノ際 等ハ管轄領事館ノ協力ヲ求メシムルコト
	(ハ)邦人ニ課スル營業稅ノ種類及稅率ニ付テ ハ豫メ在滿大使館ト協議シ其承認ヲ求メ シムルコト之力變更ノ際モ又同様ノ手續 ヲ取ラシムルコト
	(二)稅額ニ對スル紛爭ヲ避クル爲有力邦商ヲ シトノ考慮ニ基キタルモノナリ
(三)默認ノ時期ヲ本年七月頃トナセルハ滿洲國ニ於テ目下研究中ノ國稅營業稅ノ整理及統一カ大体其ノ頃實現ノ見込ナル由(滿洲國財政部ノ言ニ依ル)ナルヲ以テナリ從テ右整理カ遲ルルトキハ之ヲ整理完了ノ時トス	
(四)營業稅默認ノ代償トシテ舊熱河省ニ相當スル地域ニ於ケル日本人ニ對スル商租權ノ許與ヲ要求スルハ先般商租問題解決シ南北滿ニ於ケル邦人ノ商租自由トナリタル際舊熱河省内ノミハ特ニ除外セラレタルヲ以テナリ	
(五)默認ノ條件トシテ	
(イ)現行營業稅率ノ引下ヲ要求セルハ現行營業稅率ハ關東州ノ營業稅率等ニ比シ甚タシク高率ナルヲ以テ右トノ課稅ヲ默認スルコトハ條約ノ建前上到底困難ナルヲ以テナリ尤モ附屬地内外ノ商民ノ負擔均衡問題ニ關シテハ別	限リ地域ハ附屬地外居住者(商埠地ヲ含ム)ニ ム)ニ限ルコト

稅ヲ課スルコトトスルモ可ナルヘシ

(口)強制力ヲ伴ハサルコト及罰則ノ適用ナキコトハ默認ノ

性質ニ基ク當然ノ結果ナリ尤モ徵稅上ノ必要ニ基キ帳簿、商店等ノ検査ヲ必要トスル場合等有リ得ヘキ處其ノ際ハ該地方管轄ノ領事ニ於テ滿洲國官吏ニ代ツテ検

查ニ當ルカ又ハ私人ノ資格タル稅務吏ト共同シテ検査ニ當ルコトセハ差支ヘナカルヘシ又邦商ニ於テ何等

カノ理由ニ基キ納稅ニ應セサル場合等ニ於テハ管轄領事ニ於テ適當ノ協力ヲ與フルコトトスレハ可ナルヘシ

(ハ)邦人ニ課スル營業稅ノ種類及稅率ニ關シテハ豫メ滿洲國財政部當局ニ於テ在滿大使館ト協議シ其承認ヲ得ル

コトトシ之ヲ變更セントスル場合モ同様ノ手續ヲ採ラシムルコトスルコト必要ナリ

(二)營業稅額ニ決定ニ當リ滿洲國官吏ニ於テ不當ノ決定等ヲナスヲ防止スル目的ヲ以テ豫メ有力邦商ヲ以テ稅額査定委員會ノ如キモノヲ組織セシメ滿洲國側ヲシテ稅額決定ニ付テハソノ意見ヲ尊重セシムルコトスルコト必要ナルヘシ

(ホ)重要企業ニ對スル免稅ノ條件ヲ設ケタルハ滿鐵其他國

策遂行上重要ト認メラル企業ニ對シテハ免稅ヲ必要

トスル事情アリ得ヘキヲ以テナリ

(イ)滿洲國側ヨリ一定金額ヲ邦人民會ニ對シ寄附セシムルコトセルハ滿洲國ノ營業稅默認ノ曉ハ邦商ノ負擔輕減ヲ計ル必要上從來其納附シ居リタル民會費ヲ減額スル必要アルヲ以テ右ノ結果ニ基ク民會ノ歲入不足補填ノ目的ニ出テタルモノナリ

~~~~~

719 昭和10年7月11日 在奉天宇佐美總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

改正營業稅の邦人への適用問題を討議するため各地民會等責任者による研究會の開催を在奉天居留民會會長要望について

奉天 7月11日後発 本省 7月11日後着

第九四號 本官發滿宛電報

第一一八號

本十一日當地野口民會長當館ヲ來訪シ當地會議所會頭等ト

片相談ノ結果ナル趣ヲ以テ滿洲國新營業稅法ノ賦課率ハ現在ノ民會課金ノ十倍乃至三十倍ニ上リ之ヲ本邦人ニ適用セラルトキハ根本的ニ打擊ヲ蒙ル惧アリ依テ全滿民會商工會議所地方委員會ノ責任者ニ集合ヲ求メ右ニ關スル詳細ナル研究會ヲ開催シ併セテ大使館滿洲國關東軍側係官ノ説明ヲ聽取致度但シ右會合ハ全然之ヲ公開セス且最惡ノ場合モ陳情以上ノ强硬態度ニハ出テサルヘキニ付諒解アリタキ旨申出アリ係官ニ於テハ右營業稅ハ目下ノ處全然本邦人ニ關係ナキ次第ニ將來結局右營業稅率ニ服スルモ稅率ノ漸進的適用、幼稚產業課稅ノ一定期間免除等何等力辨法ヲ考慮セラルヘシト信ス依テ一應大使館ニ於ケル現在ノ大綱的腹案ノ有無等問合ノ上何等回答致スヘキ旨說示シ置キタル由ナル處非公開ノ會合ナラハ滿洲國新營業稅一般ニ與ヘ居る誤解解消ノ爲ニモ適當指導ノ上許容スル方却テ時宜ニ適スルヤニ思考セラル就テハ右大綱的腹案決定成居ルニ於テハ之力を要領並ニ右會合許容ニ關スル貴見至急御回示煩度シ

六 滿州國をめぐる諸問題

新京へ轉報アリ度シ

吉林、哈爾賓、安東、營口、錦州、間島、齊々哈爾へ轉電

~~~~~

張ヲ繰返シタル上是非同局ノ方針ニ賛成ヲ得度旨懇談シタ

ルヲ以テ本官ハ確乎タル本省ノ方針ナルヲ以テ現地ニ於テ

方針ヲ變更スルカ如キ立場ニアラス旁本件ハ中央ニ於テ之
カ解決ヲ計ルヨリ致方ナカルヘキ旨ヲ説明スルト同時ニ今
後共充分聯絡ニハ應スヘキ旨應酬シ置キタリ

右ノ如キ事情ナルヲ以テ此ノ際現地ニ於テ關東局側ノ意嚮
ヲ變更セシムルコトハ困難ナルヘク中央ニ於テ之カ解決ヲ
計ラルルノ外ナキモノト思考ス或ハ同局特別會計廢止等ノ
方針確定ニ依リ間接ニ我方主張貫徹ヲ計ルコトモ一案ナル
ヘキカト存ス

以上貴官限り極秘ノ御含迄

721 昭和10年8月26日 在奉天宇佐美總領事より
広田外務大臣宛(電報)

滿州國による邦人への課税問題に関する奉天

地方民間代表者の意見について

奉天 8月26日後発
本省 8月26日後着

第一一號

本官發滿宛電報

三、將來營業稅ヲ日本人ニ課スル場合ハ漸進主義ニ依リ向
五年間右改正稅率ノ三分ノ一爾後ノ五年間三分ノ二第十
一年目ヨリ全稅率ヲ賦課セラレタシ

四、地方稅ハ當分賦課セサルコトシタシ

期セラレタシ

五、滿人ハ脫稅ニ長スルヲ以テ査定ニ際シ日滿人間ニ不公平
ヲ生セサル様注意アリタシ
尙附屬地内外等ニ對スル徵稅機關ヲ同一ニシ實際上ノ不公
平ヲ來ササル様希望アリタルカ此ノ點ハ貴地懇談會ニ於テ
當地代表者ヨリ口頭陳述アル筈
所屬分館へ轉電アリタシ
新京へ轉報アリタシ
在滿各領事へ轉電セリ

722 昭和10年9月8日 在滿州國南大使より
広田外務大臣宛(電報)

付屬地課税問題に関する関東軍參謀長・關東 局總長・滿州國總務府長・大使館參事官の四 者協議について

新 京 9月8日前發

本 省 9月8日前着

第八〇九號(至急、極秘)

往電第七七〇號ニ關シ

桑島、栗山兩局長へ谷參事官ヨリ

第一三八號

當地特務機關ニ於テハ課稅權問題ニ關スル當地方民間ノ意
見ヲ新京ニ進達スル目的ヲ以テ民間代表者(商工會議所會
頭、居留民會長、地方事務所長、地方委員長、其ノ他有力
者)ニ對シ意見ヲ徵スル所アリタルニ對シ本二十六日右代
表者間ニ於テ協議セル意見ヲ持參同機關ニ於テ銀談會ヲ開
催セルカ(本官モ參加)右民間側意見要領左ノ通ナリ
尙二十七日貴地軍司令部ニ於テ開催ノ豫定ナル銀談會ニハ
當地代表ヨリ右意見ヲ其ノ儘提出ノ趣ナリ

一、課稅權ノ承認ハ司法權、警察權ノ移讓ヨリモ後廻シニセ
ラレタシ

二、新營業稅率ハ甚夕過重且杜撰ナルニ付朝鮮及關東州ノ稅
率ヲ折衷參酌シテ根本的ニ改正アリタク之力再審查ノ爲
少クトモ一年間全般的ニ(滿人ニ對シテモ同様)實施ヲ延
期セラレタシ
五、將來營業稅ヲ日本人ニ課スル場合ハ漸進主義ニ依リ向
五年間右改正稅率ノ三分ノ一爾後ノ五年間三分ノ二第十
一年目ヨリ全稅率ヲ賦課セラレタシ

六、地方稅ハ當分賦課セサルコトシタシ

七、本七日西尾參謀長、王催ノ下ニ大野關東局總長、長岡總務廳
長及本官ノ四名附屬地課稅問題ニ付懇談ヲ爲シタリ本官ハ
此ノ問題ニ對シ本省ノ意嚮ヲ體シ冒頭往電申進ノ趣旨ニ依
リ本件ハ東京ニ於テ決定スヘキモノナルコト及現地各機關
ノ間ニテ餘り議論ヲ闘ハスコトハ其ノ各方面ニ及ホス影響
ヲモ考慮セサルヘカラサル所以ヲ述ヘ別ニ桑島局長宛航空
便ニテ送付セル調書(滿洲國側課稅ノ妥當ナル所以トシテ
(イ)事變以來附屬地内外ノ情勢一變シ何等彼我取扱ヲ異ニス
ル理由ナキコト
(ロ)滿洲國ノ財政不如意ニシテ此ノ際速ニ附屬地内ノ稅收
(新稅收ノ大半ニ當ル)ヲモ同國ニ納メシムルコトカ法權
撤廢ノ準備ヲ促進スル所以ナルコト
(ハ)關東局ノ收入ハ最近極メテ潤澤ニシテ新財源ノ必要ナキ
コト
(二)條約關係上附屬地内外國人課稅ノ困難ナルコト
等ヲ說述セルモノヲ配付ノ上本調書ノ方針ハ大使館同僚
ニ於テ慎重研究ノ結果ニ基クモノナルカ故ニ自分限りリ之ヲ
變更シ得ルカ如キモノニアラサル旨ヲ強調セル處參謀長ヨ
リ然ラハ大使ノ決裁ヲ經ルコトトシテハ如何ト言ヘルヲ以

テ本官ハ本件ニ付テハ未タ大使ニモ詳細説明シ居ラサルニ付充分説明ノ上何分ノ決定ヲ請フコトトスヘシト答ヘ置キタルカ大使ハ十日歸京ノ豫定ナリ

尙本日ノ會議ニテ大野總長ハ從來ノ主張通り關東局ニ於テ

徵稅シ度キ旨ヲ述ヘ長岡廳長及參謀長モ之ニ唱和シタルカ本官ノ最モ意外トシタルハ長岡廳長カ滿洲國トシテ附屬地徵稅二付相當困難ヲ感シ居リ先ツ關東局ニテ徵稅ノ上後日徵稅機關ト共ニ其ノ儘讓リ受クルコト好都合トテ關東局ノ

主張ヲ支持セルコトナリ本官ハ滿洲國ノ財政難ノ實狀ヲ指摘シ現ニ百五十人ノ外務省警察官移讓スラ引受ケ難ク一旦

取止メタル豫算ヲ再ヒ復活スルノ已ムヲ得サルニ至リシ事情等ヲ述ヘテ滿洲徵稅ノ急務ヲ注意シ置キタリ

本件最近ノ經緯ハ右ニテ明カナル通り結局ハ大使ノ決裁トナルヘキモ軍側等ハ關東局側ノ所謂一兩年ノ問題ナリトノ

説明ニ誤ラレ居ルヤノ感アル處本件ハ爾ク短期間ノ問題ニアラス現ニ附屬地行政權ハ裁判權ト同時ニ移讓スルコトト

ナリ居レルカ事ノ性質上並ニ滿洲國側ノ意氣込ニ徵スルニ到底一兩年ニ爲シ遂ケ得ヘシト思考セラレサルノミナラス新課稅收入ノ大半ニシテ關東局ノ收入トナルトキハ滿側ノ

關係モアリ成ルヘク早目ニ方針ヲ定メ置クコト緊要ナリト認メ各方面ノ意見ヲモ篤ト徵シタル上左記方針ニ依リ關係機關ニ於テ具体案ヲ作成セシムルコトニ取計ヒ置キタルニ付御了承相成度シ

記⁽²⁾

滿洲國ノ健全ナル發達ヲ庶幾スルカ爲ニハ其ノ財政ヲ裕ナラシムルコト及五族間不平等取扱ノ是正ヲ必要トシ先ツ速

ニ課稅問題ヲ處理スルヲ要スル處之カ爲ニハ着手ノ迅速ト實行ノ圓滑ヲ期スルヲ第一要件トシ左ノ趣旨ニ基キ處理スルヲ要ス

一、附屬地内外ヲ問ハス日本人全部ニ亘り速ニ課稅スルコト附屬地在住滿人ニ對シテモ同様課稅スルコト

二、附屬地内外ヲ問ハス日本人ニ對スル課稅ハ稅率等同等ナルヲ要ス

三、課稅ハ漸進的ニシテ現地ノ狀況ニ適應セルモノナルコト

四、滿洲國內日本人ニ對シテハ滿洲國法令ヲ實施スヘキモ附屬地ニ對シテハ一應日本側ニ於テ課稅ス但シ右日本側課稅ハ警察權ヲ移讓スル際(昭和十二年)一括シテ之ヲ滿洲國ニ移讓スルコト

法權撤廢ノ準備ハ益々遲延シ從テ關東局ノ課稅ハ今後相當長年月ニ亘ルモノト覺悟セサルヘカラス旁同國ノ健全ナル發達ヲ助長セントスル我國策遂行ニ一大支障ヲ來シ其ノ前途寃ニ心細キ感無キ能ハス不幸ニシテ大使カスル滿洲國建設ノ根本方針ヲ理解セサル方面ノ意見ニ動カサルルカ如キコトアランカ本官等從來ノ努力モ水泡ニ歸スヘク遺憾ノ極ナリ大使歸京ノ上ハ全力ヲ盡シテ説明ニ努ムヘキモ右ニ關

設ノ根本方針ヲ理解セサル方面ノ意見ニ動カサルルカ如キコトアランカ本官等從來ノ努力モ水泡ニ歸スヘク遺憾ノ極ナリ大使歸京ノ上ハ全力ヲ盡シテ説明ニ努ムヘキモ右ニ關シ何等御意見モアラハ至急御電示アリタシ

本電部外極秘トセラレタシ

723 昭和10年9月14日 在滿州國南大使より
廣田外務大臣宛(電報)

付屬地課稅問題に関する我が方対処方針について

新 京 9月14日前着
本 省 9月14日前着

第八二〇號(極秘)
貴電第六四三號ニ關シ(付屬地課稅問題ニ關スル件)

治外法權撤廢、附屬地行政權調整移讓ノ促進殊ニ課稅問題ニ付テハ來年度ヨリ實施スルコトニ現地ノ意見纏マリ居ル

宜善處スルコト

五、附屬地内外ノ聯繫ニ關シテハ日滿兩國事務當局ニ於テ充分ニ付テハ滿洲國財政ヲ援助スル意味ヲ以テ充分考慮スルモノトス

六、外國人ニ對スル課稅ニ付テモ日滿兩國當局ニ於テ協調適

新 京 9月14日前着
廣田外務大臣宛(電報)

付屬地課稅問題に関する我が方対処方針作成

に際しての關東軍および關東局との打合せ事項について

新 京 9月14日前着
本 省 9月14日前着

桑島、栗山兩局長へ谷參事官ヨリ
往電第八二〇號ニ關シ

附屬地内課稅問題ニ關シテハ大使ニ於テモ現地ノ複雜ナル情勢ニ鑑ミ一⁽¹⁾ノ方針ヲ示スノ急務ヲ感セラレタル結果軍、關東局側、當館トノ間ニ難澁ナル折衝ヲ重不タル結果本十日漸ク冒頭往電ノ通り現地方針ヲ定メラレタル次第ノ處右ノ妥結ニ當リテハ本省ニ於テモ本日電話ニテ柳井課長ヨリ當方係官ニ指示ノ趣旨ヲ體シ

(一)特ニ附屬地内課稅主體ニ關シ日本政府カ課稅主體タルコトニ對シ本省ニ於テ極力反對ナル次第ハ板垣副長及關東局司政部長ニモ⁽²⁾說明シ置キタリ

(二)満洲國財政援助及警察權移讓促進ノ見地ヨリ日本側課稅ハ如何ナル場合ニモ昭和十二年ニハ之ヲ滿側ニ移讓スル旨ヲ明カニシ此ノ點充分軍ニ念ヲ押シ置キタリ

(三)⁽²⁾附屬地課稅二件フ收入ノ大部分ヲ占ムル消費稅ノ日滿間按分ニ付満洲國財政援助ノ見地ヨリ附屬地内稅收ノ大部分ヲ滿洲收入トスヘキ準繩ニ付別ニ係官ノ間ニ於テ本件按分ハ日本側ニ、滿八ノ割合トスヘキ旨ノ記錄ヲ作成スルコト

二打合セ置キタリ

以上ノ如キ事情ニテ現地ノ本件大綱ハ一應定マリタルモ之

本電軍側承知

725 昭和10年10月7日 在奉天宇佐美總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

滿州商工會議所連合会において邦人への課稅

問題に関する要望事項決議について

別電 十月七日發在奉天宇佐美總領事より廣田外務大臣宛第一二八号

右決議文

奉天 10月7日後發
本省 10月7日後着

力具体案作成ニ當リテハ尙種々詳細ノ點ニ付決定ヲ要スルコトモアルヘク旁今後共充分貴方ト聯絡ノ上出來得ル限り本省ノ主張ニ副フ様善處シ度キ所存ニ付御了承アリタシ御率ノ四分ノ一位トシ漸増シテ五年目頃ヨリ全部徵收セシムルコトトシ度キ腹案ヲ有シ居レルカ關東局側ニテモ同意見ナリ

尙營業稅率ハ居留民ノ動向ニ顧ミ大体最初二年間ハ現行稅率ノ四分ノ一位トシ漸増シテ五年目頃ヨリ全部徵收セシムルコトトシ度キ腹案ヲ有シ居レルカ關東局側ニテモ同意見ナリ

本省ノ主張ニ副フ様善處シ度キ所存ニ付御了承アリタシ御率ノ四分ノ一位トシ漸増シテ五年目頃ヨリ全部徵收セシムルコトトシ度キ腹案ヲ有シ居レルカ關東局側ニテモ同意見ナリ

氣付ノ點モアラハ御電示ヲ請フ

本電軍側承知

725 昭和10年10月7日 在奉天宇佐美總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

滿州商工會議所連合会において邦人への課稅

問題に関する要望事項決議について

別電 十月七日發在奉天宇佐美總領事より廣田外務大臣宛第一二八号

右決議文

奉天 10月7日後發
本省 10月7日後着

第一二七號
本官發滿宛電報

第一五八號

第廿六回滿洲商工會議所聯合會ハ豫定通り四、五日兩日ニ亘リ開催セラレタル處會議中最重要問題トシテ論議セラレタルハ滿洲國課稅問題ニシテ有力方面ヨリ强硬論出テ相當紛糾ヲ見タル模様ナルカ結局別電ノ通り滿場一致決議シ之ヲ關係各機關ニ郵送スルト共ニ不取敢星野司長及山本書記官宛電報スルコトナレル趣ナリ

官宛電報スルコトナレル趣ナリ

(別電)

奉天 10月7日後發
本省 10月7日後着

本官發滿宛電報

第一五九號

滿洲國課稅二關スル決議

本聯合會ハ滿洲國ノ健全ナル發達ヲ企圖シ進ンテ之カ協力ト

(一)營業ニ對スル課稅ハ原則トシテ營業純益ニ課スルヲ公正トスヘキモノナルヲ以テ滿洲國營業稅ハ總テ妥當適切ナル營業收益稅ニ改正セラルヘキコト

(二)若シ全部收益稅ニ依ルコト困難ナル場合ニ於テモ現行營業稅法ハ滿洲ノ實情ヲ無視シ稅率極メテ高率ニシテ種目ノ按配亦甚⁽¹⁾不合理ノモノアリ到底此ノ儘實施スヘカラサルモノト認ムルヲ以テ本稅法ノ根本的改訂ヲ必要トスルコト

(三)將來營業稅ヲ在留邦人ニ課稅セラル場合ハ少クトモ十年以上ノ漸進期間ヲ設ケ適當ノ遞進方法ヲ採ラルヘキコト

(四) 地方税ハ満鐵公費又ハ居留民會賦課金ヲ負擔スル期間ハ

絕對ニ賦課セラレサルコト 以上

昭和十年十月五日 第二十六回満洲商工會議所聯合會

726 昭和十年十月二十三日 在満州國南大使より
広田外務大臣宛

治外法權撤廃現地委員会が作成した付屬地課

稅問題に関する法權撤廃までの中間的処理方

針について

公機密第一九七九號

昭和十年十月廿三日

在満洲國

特命全權大使 南 次郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

本月十八日治外法權撤廃現地委員會ノ決定ヲ見タル首題要

綱二部茲ニ送付ス

附屬地内外國稅調整要綱（昭和一〇、一〇、一八）

（接受日不明）

「附屬地内外國稅調整要綱」送付ノ件

原則トシテ昭和十一年七月一日トス但シ燐寸稅及印紙稅ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

四、附屬地生產品ニ對スル消費稅收入ノ日滿兩國間ニ於ケル配分ニ付テハ「課稅處理要綱」五ノ2ノ趣旨ニ依リ之ヲ按分スルコト

五、附屬地ニ輸移入スル物件ニシテ満洲國ノ輸入關稅ヲ納付シタルモノニ付テハ課稅セサルコト但シ關東州ニ於テ製

造シタル物件ニシテ轉口稅ヲ納付シタルモノニ付テハ消費稅ト轉口稅トノ差額ヲ課稅スルコト

六、現行満洲國稅法ニシテ日本政府ニ於テ附屬地内ニ之ト同様ノ制度ヲ施行スルコトヲ困難トスルモノ又ハ課稅容體ノ存セサルモノ等ニ付テハ満洲國側ノ附屬地内ニ於ケル

調査取締ヲ容認シ且共助スルコト

七、課稅調査取締ニ關スル共助

課稅取締資料蒐集等ノ爲必要アルトキハ日本國稅務官吏カ附屬地外ニ、満洲國官吏カ附屬地内ニ立入り調査スルコトヲ容認スルト共ニ共助ヲ與フルコト

一、方針

過渡的措置トシテ日本政府ニ於テ施行スヘキ附屬地内ニ於ケル課稅制度ハ附屬地外トノ負擔ノ均衡ヲ圖ルト共ニ課稅權ノ満洲國移讓ヲ圓滑ナラシムル爲満洲國租稅制度ト同一內容ノモノタラシムルモノトス

二、附屬地内ニ日本政府ニ於テ創設スヘキ稅種
1 賽業稅、法人賽業稅

2 酒 稅

3 煙草稅（捲菸稅）

4 麥粉稅（麥粉統稅）

5 セメント稅（水泥統稅）

6 燐寸稅（火柴公賣稅）

7 印紙稅（印花稅）

三、施行ノ時期

原則トシテ昭和十一年七月一日トス但シ燐寸稅及印紙稅

ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

三、附屬地内外國稅調整要綱（昭和一〇、一〇、一八）